



| 開催日 | 開催場所 | 対象者 | 参加人数 |
|----------|---------------|-----------------------------|------|
| R7.9.3 | 四万十高校 | 生徒（自然環境コース3年生） | 14名 |
| R7.9.9 | 高知農業高校 | 生徒（森林総合課2年生） | 17名 |
| R7.10.22 | 森林研修センター情報交流館 | 情報交流館ネットワーク構成団体（森林ボランティア団体） | 16名 |
| R7.11.4 | 須崎地区森林組合 | 須崎地区森林組合技術員及び職員 | 42名 |

<高校生からの主なご意見>

森林環境税の認知度向上の方法

- ・SNSやYouTubeを活用したPR
- ・アニメとのコラボによるPR
- ・森林に関するイベントの開催
- ・学校における税の出前授業
- ・学校で手紙（チラシ）を配布
- ・税の活用事業を体験する
- ・県産材のノベルティを配布する
- ・市町村の広報誌への掲載
- ・公共的な場所に県産材で作った製品を設置
- ・おもちゃ図書館のような場所を増やす
- ・名称の変更（難しいイメージなので、簡単に）

森林環境税を活用してやってみたいこと、やりたいこと

- ・チェーンソー体験
- ・植樹体験
- ・木工品の製作（机、本棚、ベンチ、お箸、まな板、スマホ ケースなど）
- ・公共的な場所に設置する木製品を自分たちで作ってみる
- ・木の香りがするアロマ作り
- ・イベントの開催（イオンモール高知や中央公園などで実施）
- ・狩猟体験
- ・ジビエ料理作り
- ・植物採取

<ボランティア団体からの主なご意見>

等
ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア
活
動
に
お
け
る
課
題

人材や資金に関すること

- ・高齢化による人材不足、後継者不足
- ・森林整備ができる技術者不足
- ・活動時間が確保できない
- ・活動資金が不足

森林環境学習に関すること

- ・情報交流館の活用が特定の学校に偏っている
- ・子どもが自然に触れ合う機会の減少（木の名前を知らない）

木材利用に関すること

- ・木材製品がプラスチック製品に置き換わり、木の文化が薄れている
- ・安価な外材が多く使われ、国産材が活用されていない
- ・個人で木材製品を作っても流通させる仕組みがない

森林整備に関すること

- ・野焼きの禁止により、伐採した木が処分できず、里山整備の障害になっている
- ・森林の手入れ不足により、下草や山草が失われ、生態系が変化
- ・鳥獣被害の増加

税の認知度に関すること

- ・森林環境税が十分に認知されていない

税
の
課
題
解
決
に
向
け
た
ア
イ
デ
ア

- ・財源を「次世代の育成」に集中
- ・「山の日」のイベントなどについて、その全体像やビジョンを明確にPRし、広く参加を呼びかけ
- ・「こうち山の日推進事業費補助金」の補助限度額の増額

- ・情報交流館においてより多くの学校と連携し、森林環境学習を実施
- ・「木育インストラクター」を増やし、木に親しむ文化を広げる

- ・プラスチック製品から木製品への転換を促すための補助金の支出（例：木製ストローの導入など）

- ・里山の整備に関する補助金の増
- ・里山の重要性に関して普及啓発を実施（普及啓発の内容としては、若者や子ども向けに「五感を刺激する」遊びの要素を取り入れた体験プログラムを企画）

- ・森林環境税で実施可能なプログラムを一覧化し、県民が利用しやすい形で提示
- ・木工キット等に税を活用していることを表示

<林業関係者からの主なご意見>

木材利用に関すること

- ・県産材の利用促進
- ・家具やおもちゃなど、多くの人に触れるものに県産材を活用
- ・県産木材を使った建築への補助
- ・木工・竹細工体験

広報に関すること

- ・SNSやyoutubeなどでPR
- ・広報のイベントに有名人を招へい
- ・こうちで恋しよ！のイベントで森林浴や植樹体験を実施

その他

- ・空き家を民泊に活用し、宿泊者への林業体験を実施
- ・ジビエ料理を手軽に口にできるような取組